

横浜市教育委員会
定例会会議録

- 1 日 時 令和2年2月7日（金）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席者 鯉渕教育長 大場委員 宮内委員 中村委員 森委員 木村委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

令和2年2月7日（金）午前10時00分

1 会議録の承認

2 一般報告・その他報告事項

成年年齢引き下げ後の横浜市の成人式について

横浜市E S D推進コンソーシアム交流報告会について

3 審議案件

教委第62号議案 横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について

教委第63号議案 第28期横浜市就学奨励対策審議会委員の任命について

教委第64号議案 横浜市学校保健審議会臨時委員の任命について

教委第65号議案 「教委第49号議案 横浜市立小学校における給食室屋根材の飛散による物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」の議決の取消しについて

教委第66号議案 横浜市立小学校における給食室屋根材の飛散による物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について

4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

鯉渕教育長

それでは、ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。1月10日の会議録の署名者は中村委員と木村委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認いただいでよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、1月24日の教育委員会臨時会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

小椋教育次長

【一般報告】

1 市会関係

○1/30 本会議（第1日）会期の決定

教育次長の小椋です。それでは、報告いたします。

まず市会関係ですが、1月30日に本会議第1日目が開催され、会期の決定が行われました。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

○1/21～ 第62回 横浜市立中学校・義務教育学校 個別支援学級 合同学芸会

○2/5 第2回全体校長会議

(2) 報告事項

○成年年齢引き下げ後の横浜市の成人式について

○横浜市E S D推進コンソーシアム交流報告会について

次に、教育委員会関係の主な会議等です。1月21日から西公会堂で開催されております、第62回横浜市立中学校・義務教育学校個別支援学級合同学芸会ですが、1月29日、30日には木村委員が、1月31日には中村委員がそれぞれ出席しております。

2月5日には、第2回全体校長会議が保土ヶ谷公会堂で行われ、教育長から令和2年度教育委員会関係予算案等について説明がありました。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点、報告させていただきます。まず、1点目ですが、成年年齢引き下げ後の横浜市の成人式について。次に、2点目ですが、横浜市E S D推進コンソーシアム交流報告会について、報告させていただきます。

私からの報告は以上です。

鯉淵教育長

報告が終了いたしました。何か御質問等がございますか。

中村委員

今、御報告にございましたが、中学校・義務教育学校個別支援学級合同学芸会に行っていました。戸塚区、中区、保土ヶ谷区、神奈川区の4区の発表会でしたが、本当にキレイのダンスだったりですか、ものすごく長いせりふを非常に豊かに表現する子ですか、子供たちというか生徒たちがとても生き生きと楽しそうに参加していました。子供の持っているものは本当にすごいと感動しながら見せていただきました。言葉が出ない子たちも先生方や仲間たちが上手にその子の特性を生かしながら全員が参加して、一人ひとりの個性を生かしながらとても素晴らしいものに仕上げているなどと思ひ、改めて先生方の創造的なお仕事に感謝したいと思ひました。どんちようが下がってくる時の一人ひとりの生徒たちのほっとしたというか、やり切ったというか、すごく満足げな表情が印象的でした。

小学校とか中学校とかの義務教育の間は本当に御家族の方は御苦労があるとは思ひますけれども、まだ良い時間を過ごせているのかなと思ひますが、義務教育が終わった後の進学のことですか、あるいは社会に出て本当にこの子たちが自立して生活していけるような社会であってほしいなということをお願いしました。以上です。

木村委員

僕も同じように視察に行ってきました。本当にびっくりしました。影絵なんかは本当にすごい、プロ級の技でしたし、子供の可能性とか教育の可能性をものすごく感じることでできた、本当に良い合同学芸会だったと思ひます。結構長時間にわたるものでしたが、僕なんかはじっとできていないのに、子供たちのほうは集中して聞いていたので、本当にびっくりしました。ああいったところを、これからどんどん人の可能性、教育の可能性をまさしく追求するべきだと思ひます。以上です。

鯉淵教育長

よろしいでしょうか。ほかに御意見等がなければ、成年年齢引き下げ後の横浜市の成人式について、所管課から御報告いたします。

渡邊生涯学習
担当部長

生涯学習担当部長の渡邊です。それでは、資料に基づいて御説明いたします。

18歳成人となる令和4年度以降の本市の「成人の日」を祝うつどいにつきましては、「成人としての社会的責任を改めて自覚し、横浜への愛着を深める等、重要な場」として、引き続き20歳を対象とすることとします。

「1 現行どおり20歳を対象とする主な理由」でございますが、市民アンケートを採りまして、今までどおり20歳を対象として実施すべきという回答が一番多かったものでございます。裏面も見てくださいなのですが、横浜市在住・在学の15歳から69歳、約6,200人の方を対象に市民アンケートを実施しました。回答いただいた約3,500人のうち、約67%の方が今までどおり20歳を対象として実施すべきと回答しました。まず15歳から69歳を住民基本台帳から無作為抽出して、3,850人の方にお願ひして、有効回答が1,769票でございました。さらに横浜の市立学校の生徒、中学3年生から高校3年生のこれから成人式を迎える方ですけれども、直接学校で配布してもらって、回収したというものでございます。これについても2,328票配布して、1,754票回収されたということで、全体としては回答率が57.3%でございました。

表に戻っていただきまして、主な理由の2つ目ですけれども、18歳を対象とす

ると、新成人、18歳の皆様の多くが受験や就職活動の時期と重なるので参加しにくくなるというものでございます。裏面に行きまして、主な設問で2問ほど聞いております。設問の枠の2つ目を見ていただきたいのですが、「今までどおり20歳を対象として実施すべき」というのは67%近くあります。さらに米印の2つ目に、今までどおり20歳を対象として実施すべき理由は、18歳で成人式を実施すると、受験や就職活動の時期と重なり、成人式に参加できない人が増えるからという理由が一番多い結果でございました。

表面に戻っていただきまして、検討の経緯の(2)でございまして。関係団体にも意見聴取を行いまして、成年年齢引き下げ後の成人式について、総意として、現行どおり20歳で実施するのが良いとの御意見をいただきました。どのような関係団体、有識者から御意見をいただいたかということにつきましては、裏面の2になります。「成人の日」を祝うつどいに関する懇談会ということで、12月23日に横浜市町内会連合会を初め、御覧の団体、有識者としては横浜市社会教育委員会議長の議長の方に参加していただいております。

戻って「20歳で成人式を実施する意義」でございまして。現行の成人式は、平成16年度の「成人の日」記念行事のあり方についての提言に基づいて実施しています。しかし、令和4年度以降は新成人の定義が18歳となりますので、20歳で成人式を実施する意義について、改めて定義、意義を考えております。

まず1つ目は、現行では「成人式は新成人が大人になったことを自覚するための行事であり、記念式典の主役は新成人である。」というものでしたが、これについて令和4年度以降は、「成人としての社会的責任を改めて自覚し、大人としての行動を考えるためのきっかけの場とする。」、2番目は、「それぞれが、これまでの成長を振り返り、横浜市民のアイデンティティを認識し、横浜への愛着を深める場とする。」ということで定義しております。2つ目でございまして、現行では「成人式は新成人自らが企画に参画し、併せて青少年育成団体との協働」ということで書かれておりますけれども、今回は成人になってから2年後になりますので、令和4年度以降は「成人式は成人自らが参画し」と書いております。また、現行の③では、「成人式は、新成人の自覚を促すため」と書いてありますが、これについても令和4年度以降は「改めて成人の自覚を促すため」と変えております。

式典の名称ですけれども、まだ正式決定しておりません。仮称として「二十歳の横浜市民を祝うつどい」ということで考えております。説明は以上でございまして。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御質問・御意見等はございますか。

森委員

御報告をありがとうございます。裏面の「(2) 主な設問」の下の問いで、「今までどおり20歳を対象として実施すべき」と「対象年齢を18歳に変更して実施すべき」は、それぞれ67%と14%近くございますけれども、その理由としてどんな自由意見があったのかが分かれば教えてください。

渡邊生涯学習
担当部長

まず、自由意見としては、「成人式に出たいけれども、18歳だと受験やお金の面で行けなくなったりする人が多くなるからわざわざ引き下げる必要はないと思う。」という御意見などがありました。また、「お酒やたばこなどは20歳だから、勘違いして18歳の人が飲んだりしてしまう可能性がある。18歳に下げるメリットはないと思う。」という意見もありました。それから、「成人式というのは歴史の流れによって変化してきたものだと思う。だから、成人を18歳でも良いと

思うが、受験と重なるので問題を感じる。」「成人式は人生の節目の大切な行事であり、ずっと続けていかなければならない日本の文化だと思っています。20歳の成人式を楽しみにしています。」といったような自由意見がありました。もっとたくさんありますけれども、少し紹介させていただきました。

木村委員

似たような質問ですが、裏面の「(2) 主な設問」の2つ目、「②対象年齢を18歳に変更して実施すべき」のパーセンテージは全体の中の13.8%だと思いますけれども、これから迎える今の18歳以下のアンケートでは何%ぐらいですか。

渡邊生涯学習
担当部長

中学3年生から、これから成人式を迎える年代ですけれども、「②対象年齢を18歳に変更して実施すべき」のパーセンテージとしては合計で12.9%しかございませんでした。

宮内委員

20歳とすることでよろしいかと思いますが、表面の意義についての書き方が気に入りません。「③成人式は成人自らが企画に参画し、併せて青少年育成団体との協働により進められることが必要である。」とか、「④成人式は、改めて成人の自覚を促すための大人からのメッセージ」という、大人からのメッセージであったり成人をこれから育てるというような目線で書かれていることがよろしくない。20歳はもう大人だろう。これから18歳も大人扱いをしていく中で、20歳は伝統的に、伝統といっても戦後であります、行われてきた年齢であるし、またアンケート結果もこうだから20歳にお祭りをしようということですが、子供扱いをし過ぎているのではないか。そもそも日本人がこんなに幼稚になっているのは、大人が子供の自立を阻害しているのではないかなと思います。

例えば、環境運動をやっているグレタさんのように16歳で世界に出ていって、良い悪いは別として、正しいか正しくないかは別として、しかるべく発信するというような立派な若者たちが世界にはいるわけです。それに対して、何でこんな大人が、また後ろに書いてある懇談会のメンバーを見ても、大人の中でもかなり年上のほうの方々ですよね。こういう方々にコントロールされて、自分で何も主張しない。こういう幼い大人を作りたくない。主体はあくまでも成人である。ただ、20歳の人に企画をさせるといっても、箱を作らないで行うというのは実現性に問題が生ずると思いますので、ある程度の枠はあるでしょうが、2年ぐらいかけて18歳になった人を集めて、ジュニア市議会のような形で、成人式一つでも市民が作り上げていくというきっかけにしたらいいのではないかと思います。

お祭りは私は賛成であります。しかし、何のための祭りなのか。大人にするための祭りだろう。大人というか年寄り目線でああしろこうしろと言うのに対して、唯唯諾諾と従う若者も問題ですが、そうさせないように仕向けるのが我々教育者の仕事ではないかと思えます。ということで、この書き方は私の趣味には合っておりません。どう思えますか。

渡邊生涯学習
担当部長

成人にもっと自ら考えて参画させるべきということは御意見として伺いました。意義はできればこのままでいかせていただきたいのですが、そのような形で自ら主体的に考えてやっていくということは、今でも「成人の日」記念行事実行委員会を立ち上げて、今年の成人式の第2部のほうはかなり新成人の企画で実施しました。先日、その「成人の日」記念行事実行委員会の反省会がありました。新成人からは自分たちの企画を大いに採用してもらって大変うれしかったという話ももらっています。今まで以上に新成人が関われるような形を考えていきたいと思っております。

宮内委員

「成人の日」記念行事実行委員会のメンバーというのはどうやって決めるのですか。要は、「成人の日」記念行事実行委員になりたいと思ってもなり方が分からなかったり、手の挙げ方が分からなかったりする。そういった「成人の日」記念行事実行委員会をもっと開かれた集団にする、一定のものの考え方の人たちが集まらないようにする。要は、民主主義の仕組みそのものを具現化するような、その仕組みをもっと意図して設計したらどうかというのが提案であります。

渡邊生涯学習
担当部長

今の「成人の日」記念行事実行委員会の募集は、記者発表をして公募という形で採っております。毎年10人前後の方の応募があって、ちょうどいい人数でもございますので、そのような形で進めております。実際、夜に約20回ほど本番までに打ち合わせをするのと、それ以外にそれぞれの委員がいろいろな作業だとか準備をしますので、大変な作業量があります。従いまして、ある程度時間に余裕のある、今のところ大学生ですとか専門学生がほとんどという形になっています。いろいろな方に、本当に多様性ということで参加していただきたいと思っておりますので、その辺は少しこれから工夫しなければいけないなと思っております。

宮内委員

ぜひお願いいたします。

大場委員

私からは先に質問を1点だけ。ほかの主だった都市も大体20歳という方向で今、動いてきているように私も感じています。20歳以外の選択をした顕著なところがありやしやというのを一つ伺っておきたいのと、裏の設問で「成人式に参加したくない」の15%という数字を多いと見るのか少ないと見るのか、次の問いで「実施しなくてよい」というのも7%であって、今この場ですぐに出るかどうかわかりませんが、自由意見欄で参加したくない、あるいは実施しなくていいというところで、何か顕著な意見というものが記入されておられるのかどうかということと、ほかの都市も多分こうやって横浜と同じようにアンケート調査だったり関係者の意見交換会を経て答えを出してこられているだろうと思えますけれども、どこかと比較して、例えば「参加したくない」の15%という数字を同じように比較できるどこかの都市のアンケート調査は入手できていますか。

渡邊生涯学習
担当部長

今日の時点では他都市のアンケート調査は持っていません。成人式に参加したくない理由でございますが、それも自由意見欄とか、あるいは設問で聞いています。成人式に興味がないからという方が46.8%で一番多い形になっています。それから2番目が、勉強や仕事などで時間がないから、成人式で会いたいと思う友達がないから、特に成人式は人生の節目だと思わないからというのが20%前後で続いています。もう一つありました。晴れ着やスーツなどの準備にお金がかかるからと。これも20%前後で続いているという形です。

大場委員

ありがとうございます。いろいろな手順を踏んで、今回はこういう方向性を固められて、報告事項ということなので私もこれでいいと思います。ここからは私の意見で、さっき宮内委員も言われたとおり、少し大人からのメッセージというところが、表現の仕方は難しいですが、上から目線っぽくならないであってほしいなということです。お前は昭和だからと言われるかもしれませんが、大昔はたしか横浜文化体育館で式典をやって、勤労青少年センターで自分たちと少し年代の上の人も含めてコンサートがあったり、ダンス大会があったりとか、少し和やかな雰囲気イベントが、もう一カ所どこかの会場があったと思えますけれど

も、自分たちで一緒に作り上げるんだという方向性が強くにじみ出ていたように私は思います。

今は人口が多くなり対象者も多いから難しいことは分かります。自分たちで一緒になって作り上げていく成人式という色合いを、もちろん実行委員会方式でやっていることは承知していますけれども、「成人の日」記念行事実行委員会以外にも別に軽音楽のコンサートがいいとか、それだけにこだわるわけではありませんが、何かそういう場面があってもいいのかなということを感じました。

それから、質問ではないと言いながら1つだけふと思ったのは、18区ごとにやるという選択肢は何か物理的に大きな課題があるのですか。

渡邊生涯学習
担当部長

各区ごとに開催できないかということですが、区によっては新成人の方が3,700人を超えるような区がございます。その区には一番大きいところでも500~600人のホールしかないということがありますので、とても一日では開催できないという問題が一番大きいかと思えます。それから、引き続いて横浜アリーナで開催したいという御希望が非常に多く、これもアンケートで聞いていますが、今までどおり横浜アリーナ1カ所で開催したほうが良いという方が66%ございました。開催場所は見直すべきというのはむしろ少なく、11.8%でございました。

大場委員

ありがとうございます。今までどおりというと、結局それは関係者と大人が答えている部分だろうと。当事者は、言葉は悪いけれども横浜アリーナに一回も入っていない人もいるかもしれないから、横浜アリーナを一度探索するという意味で横浜アリーナという選択肢はそれはそれで分かるような気がします。私はぜひ引き続き20歳で実施していく上でも、単に呼ばれて招待を受けてただ来ることではなくて、一緒に仲間と自分たちの20歳を祝うということにうまく力点を置いた事業運営が進まれることを祈っています。以上です。

渡邊生涯学習
担当部長

ありがとうございます。

森委員

先ほどから20歳になった皆さんが企画するということについての発言がありました。それを聞きながら思い出したのは、以前、学校見学で回ったときに、とある授業で先生が良い問いを出していらっしゃって、大人と子供の違いは何でしょうということをお子たちに問いかけていました。子供たちはグループに分かれて、働いているのと働いていないの違いではないかとか、明確な差はないのではないかとか、親と一緒に住んでいるからではないかとか、いろいろ子供たちなりに考えていて、それを見ながらある意味安心しました。子供たちも考える力はついてきていて、恐らく18歳であろうと20歳であろうと、私たちが大人になるとはどういうことだろうということを学校現場でも外でも考えているのだろうなと思っています。なので、こういった準備が成人式としてあっても、恐らく18歳であろうと20歳であろうと、皆さんが自分たちなりに自覚を考える場というのは自分たちで勝手に作っていく、そういった流れになっていくのだろうなという気がします。なので、同窓会的なものなのか、自分たちで企画するのかというのは、この外でもっと行われていくという流れは、良い意味で起きてくると思っていますし、それを後押ししていきたいと思っています。

その中で、全員が、何万人と集まる場は何なのだろうということが恐らくポイントになってくるのではないかと思います。先ほどのフリーアンサーの中に、成人式というのは時代とともに変化してきたものだし、これからも変わっていく

だろうということがあったと思います。「成人の日」記念行事実行委員会の皆さんがどういう方々になるか分からない。私たちが思う大人とはこういうものなんだということを皆さんが表現する場であったりとか、あとは、どちらかというところは保護者なので保護者寄りかもしれませんが、親も子離れをちゃんとするというのがこの日になるのかなという気もちよっと思います。そこがうまくできていない家庭もすごくあるのかなという気もして、ここをちゃんと親も子もともに意識する場として、もしかしたらそういった日なのかなというの少し見ながら思いました。

あと、成人の皆さんが企画する良さというのもあると思いますし、そこは引き続き大事にさせていただきたいポイントではありますが、観点として、例えばいろいろな言葉を話す皆さんがいらっしゃいますし、インクルーシブという観点を皆さんに示していくというようなことも追加でこれからは必要になってくるのかなと思います。物理的に足を運べない子とか、わーっと音がしたり人がぎゅっと狭い空間にいることが苦手な皆さんもいらっしゃるの、遠隔で見ることができるといふことであったり、分かりやすい日本語であるといふことであったり、そういった観点も成人の皆さんたちにお示しながら企画してもらいたいということも一つ観点としては必要かなと思いました。

何より消費者にならないで、自分たちが社会を作っていくといふことを、18歳、20歳を問わず、小さい頃から伝えてそういった思考になっていくといふことを教育委員会としても大事にしたいと思ひます。以上です。

渡邊生涯学習
担当部長

ありがとうございます。

鯉淵教育長

よろしいでしょうか。

中村委員

初めに、横浜市立学校の生徒たちにアンケートを採っていただいたといふのは、とても良かったと思ひました。もちろん15歳から69歳の中にも若者たちは入っていますが、生徒たちが自分事としてどう考えるかという意味合ひで、このアンケートはとても意味があるなと思ひました。

前回は成人式のことについてはお話を申し上げたのですが、「成人の日」記念行事実行委員になられた方たちはどうしたらみんなが興味を持ってくれるのだろうかとう本当に一生懸命考えたと思ひます。だからあのような工夫もしたのだろうかといふことはすごく分かる反面、何となく、「成人の日」記念行事実行委員会で一生懸命知恵を絞って考えている方たちと参加している人たちの間の思ひで、もしかしたらかい離があるのかもしれないなという印象も持ちました。

先ほど「成人の日」記念行事実行委員の中で多様性というお話がありましたが、アンケートの中に晴れ着やスーツの準備にお金がかかるですとか、やはり胸が痛いのは、会いたい人がいない。逆にももしかしたら会いたくない人がいるとか、そういう声にも耳を傾けていかなければいけないのではないかといふことも思ひました。皆さんがおっしゃっているように、受け身のやってもらふ祝うつどいからどう脱却していくかといふことが課題なのかなと思ひました。以上です。

渡邊生涯学習
担当部長

ありがとうございます。

鯉淵教育長

よろしいでしょうか。特になければ、次の横浜市ESD推進コンソーシアム交

流報告会について、所管課から御報告いたします。

直井学校教育
企画部長

おはようございます。学校教育企画部長の直井でございます。平成28年度から行っています横浜市E S D推進コンソーシアム交流報告会につきまして、今年度も小中学校、高等学校が参加して開催されました。それでは、所管の課長から御報告をさせていただきます。

石川小中学校
企画課長

小中学校企画課長の石川でございます。よろしくお願いたします。お手元の資料を御覧ください。令和元年度横浜市E S D推進コンソーシアム交流報告会を令和2年1月25日に開催いたしました。今年度で4回目の開催となりました。交流報告会は2部構成となっており、午前の児童生徒の部、午後の教員の部に分けて、J I C A横浜でそれぞれの目的に合った交流を行いました。

「3 参加者」でございますが、午前の児童・生徒の部にはE S D推進校の小中学校11校、中学校3校、高等学校1校と、今年度は横浜子どもピースメッセンジャーの児童生徒のうち3名が参加し、約150名が集まりました。保護者、引率の先生方、あるいは関係者を合わせると、約300人ということになります。午後の教員の部の参加者は、市立学校の教職員やコンソーシアム委員、大学関係者、E S D関係者など約80名になりました。

「4 内容」に参ります。「(1) 【午前】児童生徒の部」から御報告いたします。まず、そこにございますように、各校のE S Dの取組が分かる資料を体育館の会場の壁に張り、発表側と聞く側に分かれてのポスターセッションを行いました。内容も各学校で、例えば身近な給食の残りに着目してみたり、海洋プラスチックに着目してみたり、様々な取組を発表しました。タブレット端末やプレゼンテーションのデータを使った、工夫した発表も多く見られました。

次に、ポスターセッションを受けて感想交流をいたしました。中学生・高校生は小学生の取組の多様さや内容に驚いたり、あるいは小学生は中学生・高校生の取組のすばらしさに感動したり憧れを抱いたりみたいなのも見られました。校種も問わず、自分たちにできることがまだたくさんあることに気付くということが見られました。限られた時間ではありましたが、多数の児童生徒が挙手して、全員が発表できないほど活発な議論が行われました。3年前にこの会を開催した頃に比べて、SDG sを教育課程や様々な教育活動に位置付け、その価値を教職員だけでなく児童生徒も理解してきていることが分かる発表になっておりました。

続きまして、ワークショップでございます。児童生徒にSDG sだけでなく、日本の抱えている課題について少しでも身近に考えてもらうために、例えば日本の電気やガスはほとんどが外国産であるとか、日本ほど災害が起こるのは世界では珍しいなどのトピック、テーマを取り上げて行いました。ワークショップのグループは小学校3年生から高校1年生までの様々な学年、異学年でグループを作り、中学生・高校生がファシリテーターとなって話し合い、グループの意見を模造紙にまとめました。ファシリテーターの中学生・高校生には事前にテーマを知らせて、調べたり考えをまとめたりするよう各学校で指導してもらっていたので、各自がそれぞれ自主的に資料を作成してくるなど、工夫して小学生に説明する姿が見られました。そして、違うテーマのグループとお互いに話し合いの様子を発表し合って、さらに考えを深めていました。

最後にウのところですが、東洋大学教授の米原あき先生に講評をしていただきました。ここまでの児童生徒の活動を御覧いただき、答えがはっきり用意されていない大きな問題に取り組むコツは、目をそらさずに考え続けること、

思考を止めないことということをお指導いただきました。また、子供と大人それぞれが考えた解決策を比べた場合、子供のほうが優れていることもあるんだというような励ましの言葉もいただきました。

次に、「(2)【午後】の教員の部」について御報告いたします。本市では、本年度はこれまでのE S Dの推進だけでなく、文部科学省のSDG s達成の担い手育成推進事業という事業を受けて、教育効果の評価・普及に取り組みましたので、それを大きなテーマとして行いました。ユネスコスクール全国大会に参加した教員による報告に続いて、再び米原教授にE S Dの視点から考える評価の概念について御講演をいただきました。評価とは、語源にあるとおり、価値を引き出し明らかにすることであるとして、その捉え方について解説していただきました。

続きまして、この講演等を受けまして、パネルディスカッションを行いました。小学校、中学校、高等学校の4名の教員とコンソーシアム委員の大学の先生方に御登壇いただいて、E S Dの推進に向けた評価の取組についての成果や今後の課題、展望について話し合いが行われました。

次に調査報告がありました。E S D推進に向けた評価の枠組みに関する研究をされている東京大学准教授の北村友人先生にお話をいただきました。この研究は国連大学の研究で、調査には横浜市のE S D推進校の教職員が協力しております。E S D推進校の調査の分析結果、あるいは研究の今後の方向性についてお話をいただきました。

裏面を御覧ください。次に、今度は教員でワークショップを行いました。各校のE S D推進の実践について成果と課題を付箋に書き出し、15分程度でグループのメンバーを時々変えながら、出された課題の解決と成果について議論いたしました。終わりに、先ほどの調査報告していただいた北村先生に全体講評をしていただきました。横浜の取組が他の地域よりは一步進んでいるというようなこと、これからのE S Dの在り方について、分かりやすくお話をいただきました。

以上が横浜市E S D推進コンソーシアム交流報告会の概要になります。5番には一部ですけれども、当日の様子の写真があります。報告は以上でございます。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御質問・御意見等はございますか。

中村委員

ありがとうございました。当日、午前の児童生徒の部に参加させていただきました。去年は学校の体育館だったのでとても寒かったのですが、今年はJ I C Aさんをお借りすることができたので、児童生徒たちも私たちも寒さに震えながらではなく参加できて良かったなと思いました。今年はピースメッセンジャーが参加したのもとても良かったなと思いました。どの学校もポスターセッションでは自分たちが取り組んできたことですので、本当に自信を持って堂々と発表してすばらしかったです。

必ず子供たちに、E S Dを意識することで何か今までの取組と変わったことがありますかと聞くようにしています。そうすると、もちろん学校での在り方が変わったという答えはたくさんありますが、学校でやっていることを家に持ち帰って、家族にも話して、家庭の中まで広げているという回答が非常に多かったことと、感謝の気持ちを持てるようになったというようなことを言っている子供たちがいて、とてもうれしく思いました。

先ほどの御報告にもありましたが、感想交流がすごく盛り上がりまして、司会をしてくださった指導主事の方の運営も上手だったのだろうと思いますけれども、次から次へと意見がありました。以前ここでもお話がありました、東高校の

サトウキビから食器を作るという話に対して、小学生の子供たちが初めて聞いてびっくりしたとすごく率直な感想を言っていて、それで終わらずにまた石けんまで作っているところがすごいですとか、あとピースメッセンジャーの発表を聞いて、子供たちだけでもできることがあるという感想を持っていたり、また小学生に対して中学生や高校生が君たちはすごいよと。小学生のうちからこんなことを考えて実践しているのはすごいことなんだよとすごく温かい言葉があつて、感想交流の時間がとても良かったなど。お互いのやっていることに対して改めてまた別の人たちから意味を認めてもらったり価値付けてもらうとても良い場になったなどと思いました。

ワークショップもとてもおもしろくて、講師の先生が、大人でも大したことは考えないというのがすごくおもしろかったのですが、本当に改めて答えの出ない問題だからこそ、みんなで知恵を出し合って考え続けていくことがすごく大事なんだよねという思いをみんなが持ち帰ってくれたと思いますので、ただの発表のための活動ではなく、これから先もずっと活動が続いていこうという期待感を持って終わることができました。ありがとうございました。

木村委員

今の中村委員の感想を聞いて、ぜひ見に行けば良かったと思うのですが、大変大切な取組だと思います。小中連携・一貫とか、あるいは継続・持続を考えたときに、小学校11校の試みというのがその先の中学校のほうにも続いているのですか。続いていると本当に広がりがあると思いますが、現状はどうでしょうか。

石川小中学校
企画課長

ありがとうございます。小学校の取組は、総合的な学習の時間を通しての取組がここでは多く見えますが、横浜の小中一貫教育ブロックの中で小学校で行われていることについては、中学校のほうにきちんと伝えられているという話は聞いております。あと、学校の中でもこの日のことを各学校の朝会や集会で、ここに参加しなかった子たちにもどんどん広げていって、地域全体で実践を共有するような取組が行われていると聞いております。

鯉渕教育長

よろしいでしょうか。

宮内委員

横浜市こういった取組は日本のモデルになるのではないかと考えております。先般、今、説明された石川さんが横浜でのキャリア教育というか、社会との接点をどうやって増やすように工夫しているかという講演をなさったのを私も聞きました。それを聞いた何人かの人たちが横浜はすごいねと、いろいろな工夫をしているんだねと言って、非常に評価していました。これはとてもうれしいことでありまして、今、御説明のあったこと、これだけの企画をするということはスタッフも必要だし、それだけの人がいなかったらできないと思います。

これは絶対に必要なことなのです。文科省が唱えておりますアクティブラーニングは、どうやってやったらいいかよく分からない人が世の中にはいっぱいいます。こういったディスカッションをすることこそ、また先生方が工夫をすることこそが、アクティブラーニングの実践につながると思っております。まず発信をすること、発言をすること、そして人の話をよく聞いて、妥協していくこと、またそこで新しい発想を生むこと、こういった良い回転を作る。そのためのアクティブラーニングを実践しなければいけません。どうやっていいか分からない人がいっぱいいるので、モデルを作って、そのモデルを横浜市中に伝播させていく。この仕組みを作ってやると。これが行政の仕事だと思います。一生懸命やるというのは良いことですが、それを行政としてうまく仕掛けていくということをぜひ

考えていただいて、日本の教育改革の先頭を走っていただきたいと思っております。というか、私もそれを一緒にやりたいと思っております。よろしくお願いいたします。非常に良いことだと思います。

鯉渕教育長

ほかに。

森委員

ありがとうございます。教員の部で評価の概念を考え直すということがテーマになっているということだと思いますが、私もそこはすごく大事なポイントなのだろうと思っております。E S D実践というのはすごく大事で、これからもいろいろな学校で、いろいろな現場で取り上げられてくると思います。どうやって評価するのだろうかということは、恐らく先生方が悩んでいらっしゃるって、このテーマが選ばれたのではないかと思います。実際にワークショップで成果と課題、各学校の実践について共有したとありますが、評価において今どんな悩みが現場であるかということとか、もしくは講師の先生から示された、こういうことが大事なのではないかという話、そこのポイントを共有させていただけたらと思います。

石川小中学校
企画課長

ありがとうございます。実を言いますと、先ほども申し上げました文部科学省の事業は、全国でも幾つかの市町村が受けている事業なのですが、テーマとして評価を取り上げたのは横浜市だけです。E S Dに関する評価の研究というのはとても難しく、文部科学省のほうでもぜひ横浜市にということで、横浜市だけが受けています。しかもそれが初年度ですから、試行錯誤してやっております。E S DにしるSDG sにしる、考えて、そして行動に移す、行動で表現するということがとても大事なので、先ほどの講師の先生からは、だからこそ評価はとても難しいから、実践の中でぜひそれを明らかにしてほしいという宿題をいただいております。

ただ、先ほど中村先生からお話をいただきましたけれども、子供たちの日常の活動が変容していくこと、学校の中だけではなくて、それが日常だとか家庭だとか社会に広がっていくことをどのように評価していったらいいか、これから一緒に考えていこうということで、コンソーシアムの中でもそこは課題だねという話をしております。実際に今年度もこれから1年間の取組を研究の成果としてまとめて、各学校にも発信していきたいと思っております。

木村委員

僕も評価のことはものすごく気になったのですが、学習実践と評価は表裏一体ですし、ここをどう考えるか。先ほど言ったように、横浜市が率先して様々な、ここも相互評価とありますし、自己評価、他者評価を含めて、評定ではないわけですから、そこはやはりこれから発信する、あるいは見直すときに大事なので、ものすごく期待しています。楽しみにしています。

石川小中学校
企画課長

ありがとうございます。

鯉渕教育長

よろしいでしょうか。

次に、議事日程に従い、審議案件に移ります。

まず、会議の非公開について、お諮りします。教委第62号議案「横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について」、教委第63号議案「第28期横浜市就学奨励対策審議会委員の任命について」、教委第64号議案「横浜市学校保健審議

会臨時委員の任命について」は人事案件のため、教委第65号議案「『教委第49号議案 横浜市立小学校における給食室屋根材の飛散による物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について』の議決の取消しについて」、教委第66号議案「横浜市立小学校における給食室屋根材の飛散による物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」は訴訟等に関する案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉淵教育長

それでは、教委第62号議案から教委第66号議案は非公開といたします。審議に入る前に、事務局から報告をお願いします。

齊藤総務課長

1月31日に1団体から、2月3日に個人の方1名から、日の丸・君が代に関する要望書が提出されました。これらの要望書につきましては、事務局で対応を調整の上、教育委員会で審議が必要な場合は、次回以降にお諮りしたいと思います。委員の皆様は内容の御確認をよろしくをお願いします。

次回の教育委員会定例会は、3月6日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は、3月13日金曜日の午前10時から開催する予定です。

鯉淵教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会定例会は3月6日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は3月13日金曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴・報道機関の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<非公開案件審議>

教委第62号議案 「横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について」
(原案のとおり承認)

教委第63号議案 「第28期横浜市就学奨励対策審議会委員の任命について」
(原案のとおり承認)

教委第64号議案 「横浜市学校保健審議会臨時委員の任命について」
(原案のとおり承認)

教委第65号議案 「『教委第49号議案 横浜市立小学校における給食室屋根材の飛散による物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について』の議決の取消しについて」
(原案のとおり承認)

教委第66号議案 「横浜市立小学校における給食室屋根材の飛散による物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」
(原案のとおり承認)

鯉渕教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前11時24分]